

「国際交流員による『ふくしまの今』発信事業委託業務」仕様書（案）

1 業務内容

本県の国際交流員（以下、「交流員」という。）が、海外の視点から発見した福島の魅力や福島で暮らす人々の日常、そして東日本大震災から復興する現在の姿を取材し、SNSを通じて国内外に発信することにより、「ふくしまの今」を正確に伝え、共感の輪を広めるとともに、風評払拭を図り、さらには海外から本県への来県を促進する。

以上の内容を実施するため、次の内容に基づいた提案を行うこと。

（１）県内取材

- 受託者は、令和６年４月から令和７年３月まで年間計２２回の取材計画を作成し、福島県（以下、「県」という。）の承認を得て取材を実施することとする。
- 年間２２回の取材のうち宿泊を伴う取材を３泊分（１泊２日を３回）行うこととする。ただし、宿泊を伴う取材の場合には１日を１回分として数え、１泊２日の取材の場合は取材２回分と数える。
- 取材先の選定については、有名な観光地だけでなく、日本の地域文化に関心のある外国人にとっても効果的なものになるよう、ローカルなスポットについても取り上げること。
- 年間４回は、県内で活動する外国人等のインタビュー取材を実施することとする。
- 受託者は県の意向を聞きながら、国際交流員（以下、「交流員」という。）が海外の視点から発信するのにふさわしい取材先を選定し、アポイントなど現地との調整や手配等を行い、取材は交流員とともにやり、取材後には記事作成のための打ち合わせを行うこととする。なお、受託者は取材において統括するディレクターとカメラマンをそれぞれ１名以上現地に派遣し、対応するものとする。
- 受託者は取材車両を手配し、交流員は同乗することができるものとする。なお、事故が発生した場合は、受託者の責任の下で対応を行い、県に速やかに報告するものとする。
- 取材に係る一切の経費（入館料、拝観料、飲食等）は全て事業費に含むこととする。ただし、取材以外の交流員の食事代、交通費、宿泊費は対象外とする。

（２）SNSでの情報発信

受託者は令和６年４月から令和７年３月第２週目まで毎週１又は２回（年間合計５３回以上）SNSでの発信を行うこととする。

SNSでの発信に当たっては、（１）の県内取材で撮影した写真等を活用

(ただし、令和6年4月第1週・第2週は県より支給するものとする。)し、交流員と内容を調整の上、交流員が作成した英語と日本語を併記した記事をFacebook・Instagramの2媒体に投稿する。ただし、県内で活動する外国人等のインタビュー取材に関する記事については、受託者が日本語の記事を作成し、投稿することとする(英語への翻訳は不要)。

- 年間8回は、記事に代えて1分以内の動画を作成し、投稿することとする。
- Instagramの投稿の際には、ストーリーも併せて投稿することとする。
- 記事は、単なる情報発信にとどまらず閲覧者の増加や記事の引用等につながるような手法を企画提案することとする。
- 海外からの来県を促進するものになるよう、来県に役立つ情報を補足して掲載するなど工夫すること。
- 運営対象のSNSは以下のものとし、県の公式アカウントを引き継いで運用することとする。

Facebook	https://www.facebook.com/FukushimaToday.official/
Instagram	https://www.instagram.com/fukushima_today/

- 記事や動画に掲載する英語については、県のネイティブチェックを受けることとする。
- SNSで問い合わせが来た場合、受託者は回答案を作成し、県と調整の上、回答することとする。
- 受託者はSNSのログデータ解析を行った上で閲覧者やリアクションの分析を行い、翌月7日までに前月のデータを県に報告し、分析を基に有効な投稿内容を提案することとする。
- 受託者は、県と調整の上、Facebookの背景画像を取材で撮影した写真をもとに四季に応じて年4回更新することとする。
- 新規フォロワー獲得のため、広告掲載を実施すること。
- 欧州からの新規フォロワー獲得のために、有効なインフルエンサーとの共同企画を提案すること。
- 欧州からの新規フォロワー獲得のために、有効なフォロワー参加型のプレゼント企画のコンテンツを提案すること。
- その他、欧州からの新規フォロワー獲得について、有効な企画を提案すること。

(3) その他

- 本仕様に関わらず、受託者が有する又は連携する媒体等を活用したPRなど、より効果が見込まれる手法等があれば提案すること。

2 成果品

上記仕様により作成したSNSの内容を取りまとめた資料を、令和7年3月12日(水)までに福島県国際課に提出することとする。